

ANAホールディングス株式会社 説明会

2018年3月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役 副社長執行役員

長峯 豊之

2017年11月1日



©ANAHD2017

1

- ◎ 本日はお忙しい中、2017年度 第2四半期 決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ◎ 代表取締役社長の片野坂が、かねてから予定していた出張で不在のため、私からプレゼンをさせていただきます。
- ◎ 私からは、
 - 1) 2017年度 第2四半期決算の概要
 - 2) 2017年度 通期業績予想の修正
 - 3) 事業戦略：航空事業の進捗について
 - 4) 財務戦略：資本政策についての4点について、ご説明します。
- ◎ スライドの4ページをご覧ください。

目次

1. 2017年度 第2四半期 決算（概要）

2017年度 第2四半期決算	P. 4
2017年度 通期業績予想	P. 5
事業戦略	P. 6
財務戦略	P. 7
【参考】ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債 ・自己株式取得の概要	P. 8

2. 2017年度 第2四半期 決算（詳細）

業績ハイライト	P. 10
連結決算概要	
経営成績	P. 11
財政状態	P. 12
キャッシュフロー	P. 13
セグメント別実績	P. 14
航空事業	
収入・費用	P. 15
営業利益増減要因	P. 16
国内旅客事業	P. 17-18
国際旅客事業	P. 19-22
国内貨物事業	P. 23
国際貨物事業	P. 24-26
LCC事業	P. 27-28
航空事業以外のセグメント	P. 29
燃料・為替ヘッジの進捗状況（ANAブランド）	P. 30

3. 2017年度 通期業績予想（詳細）

連結業績予想	P. 32
セグメント別 業績予想	P. 33
航空事業 収入・費用予想	P. 34

補足資料

運用航空機数	P. 36
国際旅客 方面別実績（構成比）	P. 37
国際貨物 方面別実績（構成比）	P. 38



1. 2017年度 第2四半期決算（概要）



2017年度 第2四半期決算

着実な成長戦略とコストマネジメントの推進により、全ての利益段階で過去最高を更新

1. 連結決算の状況

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	9,850	+1,000	+11.3%
航空事業	8,654	+962	+12.5%
営業利益	1,150	+255	+28.5%
航空事業	1,092	+245	+28.9%
営業利益率	11.7%	+1.6%	-
経常利益	1,127	+292	+35.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,183	+609	+106.1%
EBITDA	1,891	+312	+19.8%

2. 営業利益・営業利益率の推移（上期）



- 売上高 : 主力の航空事業が堅調に推移
- 営業利益 : 上期で初めて1,000億円を超過
(第1四半期: 254億円、第2四半期: 896億円)

©ANAHD2017

4

- ◎ 最初に、2017年度 第2四半期決算の概要についてです。
- ◎ 主力の航空事業において、国際線事業を中心に成長戦略を推進してきました。国内線事業や貨物事業も含めて、ANAブランドが増収に大きく貢献したほか、LCC事業も就航路線を徐々に増やしながら、高い座席利用率を維持するなど、グループ全体でエアライン事業領域を拡大しました。
この結果、上期の売上高は、前年同期比で11パーセント超の大幅な増加となりました。
- ◎ 一方、費用面について、事業の拡大を進める中、コストマネジメントに取り組んでいますが、整備関連費用や人件費を中心に、営業費用は前年から約9パーセント、増加しました。
- ◎ この結果、連結営業利益は、上期として初めて1,000億円を超える1,150億円となり、増収増益決算となりました。
また、経常利益、ならびに親会社株主に帰属する四半期純利益を含め、全ての利益段階で過去最高を更新しました。
- ◎ 右のグラフは、過去5年間における、上期の営業利益ならびに営業利益率の推移です。
ご覧の通り、業績は4年連続で向上しており、成長戦略を推進してきた成果が着実に表れています。
- ◎ 続いて、5ページをご覧ください。

2017年度 通期業績予想

上期の計画達成状況を勘案し、通期業績予想を上方修正

1. 2017年度 通期業績予想の修正

(億円)	当初計画 ('17.4.28開示)	今回修正	差異	
売上高	19,100	19,250	+ 150	→ 上期実績 を反映
営業費用	17,600	17,650	+ 50	→ 上期実績 + 下期見通し を反映
<hr/>				
営業利益	1,500	1,600	+ 100	
営業利益率	7.9%	8.3%	+ 0.5%	
経常利益	1,400	1,500	+ 100	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,250	1,320	+ 70	

市況前提は修正なし
(為替)
・円/米ドル ￥110/US\$
(燃油)
・ドバイ原油 \$55/bbl
・シンガポールクロシン \$68/bbl

©ANAHD2017

5

- ◎ 2点目に、今年度の通期業績予想の修正内容について説明します。
- ◎ 売上高と費用については、
上期の実績に加え、整備関連費用の増加など、下期の見通しを反映しました。
- ◎ その結果、営業利益ならびに経常利益は、それぞれ通期で100億円の増加、
親会社株主に帰属する当期純利益は、70億円の増加見込みとなる上方修正を行います。
- ◎ なお、下期の収入諸元ならびに市況前提は、当初計画からの修正はありません。
- ◎ 10/1を効力発生日とする株式併合を実施して、単元株式数を変更しましたが、
配当については、1株当たり60円を予定し、年度当初の計画を据え置いています。
- ◎ 6ページをご覧ください。

事業戦略

現行戦略の主要テーマに則り、経営の基盤固めを優先しつつ収益性の向上を追求

	2017年度 主要テーマ	取り組み（進捗）
国際旅客	1) 生産量拡大を継続 2) プロダクト・サービスの強化	① 羽田深夜・早朝枠、成田枠の活用 [増便] 8/1～羽田-ジャカルタ線、10/29～成田-ロサンゼルス線 ② B787-9型機の更なる投入（今年度：7機受領予定）
国内旅客	1) 需給適合の継続 2) 収益基盤の強化	① A321型機の積極的な活用（今年度：6機受領予定） ② プロモーション運賃投入による収入の最大化
国際貨物	1) 事業収益性の改善	① 旺盛な貨物需要の取り込み、イールドの向上 ② フレイター生産量の抑制、ネットワーク再構築
LCC	1) LCC需要の拡大	① バニラ : イールドマネジメントの強化 ② Peach : グループ連結化、仙台空港の拠点化
コスト	1) 「安全」と「人」への投資 2) ユニットコストのコントロール	① 整備体制の強化、将来に向けた人財の確保 ② 生産量拡大を活かした事業効率性の追求

©ANAHD2017

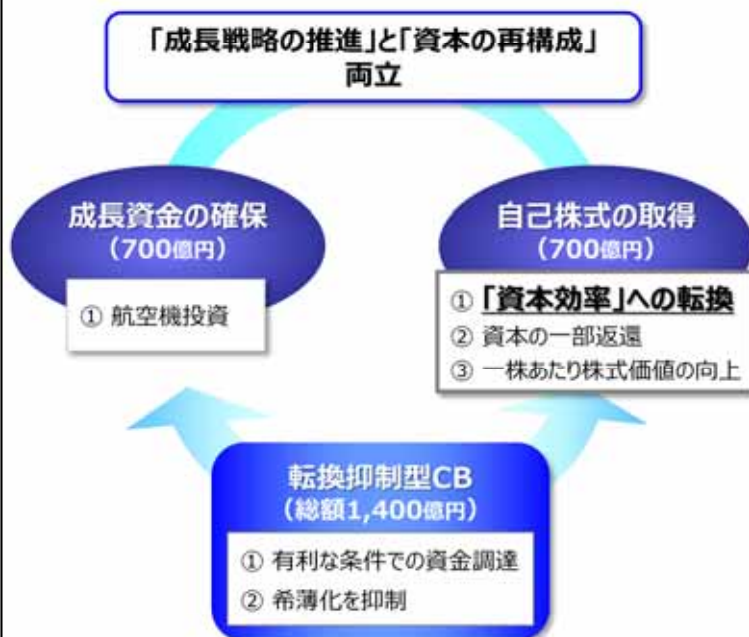
6

- ◎ 3点目に、事業戦略に関する内容として、今年度の航空事業の進捗について説明します。
- ◎ 国際線旅客事業においては、アジア・北米路線を増便した一方、新型機材の投入により、プロダクト・サービスの強化を進めています。今後も、生産量の拡大を継続して、当社グループの成長を牽引していきます。
- ◎ 国内線旅客事業は、小型機材を活用して需給適合を推進するとともに、柔軟な運賃戦略で収入の最大化を追求しています。グループの収益基盤を、更に強化していきます。
- ◎ 国際線貨物事業は、旺盛な需要を取り込みつつ、運賃の改定などによりイールドを向上させました。一方で、旅客便ネットワークの拡大に合わせて、フレイター生産量を抑制しています。貨物便ネットワークの再構築により、事業収益性を改善させます。
- ◎ LCC事業について、バニラエアでは、イールドマネジメントを強化して、増収につなげました。主力の台湾線でも競争力が回復するなど、業績は着実に向上しています。Peach Aviationは、9月下旬から仙台空港を拠点化して、新たな路線に就航しました。今後も、両社がそれぞれの強みを活かしながら、日本やアジア地域で活躍していくように、グループ経営の立場からサポートしていきます。
- ◎ 一方、コスト面については、今後の成長に備えるための経営の基盤固めとして、安全や品質サービス、更に人財に関する投資を強化しています。安全の更なる堅持を最優先課題として取り組み、基本品質の徹底にこだわります。人財については、労働市場の需給バランスを見極めながら、将来に備えた安定的な確保に努めます。
- ◎ 7ページをご覧ください。

財務戦略

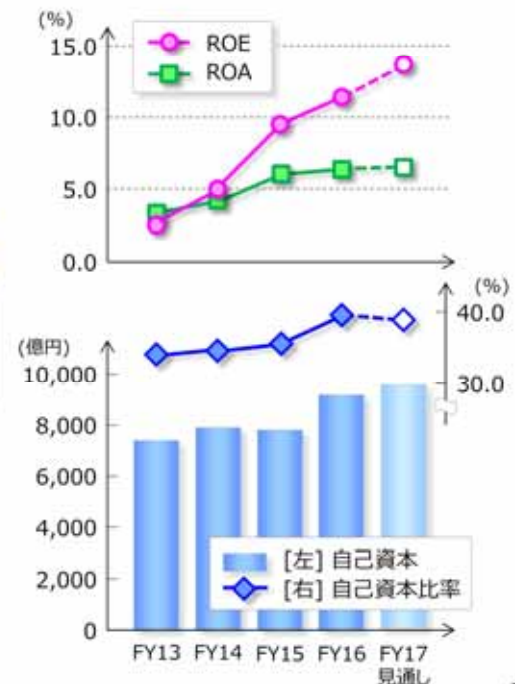
最適な財務基盤を追求しながら成長を継続、持続的な価値創造の実現へ

1. 財務・資本政策（企図）



©ANAHD2017

2. 経営・財務指標の推移



7

- ◎ 最後に4つ目のテーマです。
8月31日に適時開示した、転換社債並びに自己株式取得について、説明します。
- ◎ 左の図でお示している通り、今回実施した財務・資本政策の企図は、「成長戦略の推進」と「資本の再構成」を同時に追求したことです。
- ◎ まず、成長資金の確保です。
今後の収益拡大の源泉となる航空機投資に、700億円を充当する予定です。
引き続き、成長投資を優先して、将来のビジネスチャンスを着実に取り込んでいきます。
- ◎ 次に、自己株式の取得です。来年の3月末までに最大700億円の買付を実施する計画です。
これまでは「資本の蓄積」を充実してきましたが、
今後は「資本効率の向上」へと、資本政策を転換する考えです。
また、資本の一部を返還して、資本コストを抑制するとともに、
一株あたり株式価値の向上につなげていきます。
- ◎ これらを実現するためのスキームとして、転換抑制型のCBを選択しました。
ゼロ・クーポンによる有利な条件での資金調達であることに加え、
希薄化を最大限に抑制して、既存株主の皆様にも配慮した設計です。
- ◎ 右の図は、財務指標の推移です。資本政策実施後の財務状態を確認しています。
特段、大きな変化が生じることなく、財務の健全性を維持していくことが可能です。
- ◎ 引き続き、最適な財務基盤を下支えに、事業戦略を加速することで、
将来の企業価値向上を追求していきます。
なお、今回実施した取引の概要を、8ページにお示しておりますので、ご確認ください。
- ◎ 以上で、私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

【参考】ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債・自己株式取得の概要

【参考①】 CB発行 概要		5年債		7年債	
(1) 払込日（発行日）		2017年9月19日			
(2) 償還期日		2022年9月16日		2024年9月19日	
(3) 発行額		700億円		700億円	
(4) 利率（クーポン）		0.0%		0.0%	
(5) 転換価額		5,180円（アップ率：27.02%）		5,100円（アップ率：25.06%）	
(6) スキーム （転換抑制）	① 転換制限条項 トリガー価格	7,770円（※1）	6,734円（※2）	7,650円（※1）	6,630円（※2）
	② 取得条項	【自動行使型取得条項 + 一括型取得条項】（併用） i. 現金交付（CBの額面金額まで）、株式交付（額面を超える部分のみ） ii. 交付株数に上限を設定			
(7) 上限希薄化率		3.89%（1,361万株） ⇒ 2種類の取得条項（交付株数上限型）を行使した場合 ※1 転換価額の150%（～償還 約1年前） ※2 転換価額の130%（償還 約1年前～3ヵ月前）			

【参考②】 自己株式取得 概要

(8) 取得期間	2017年9月1日 ~ 2018年3月31日
(9) 取得上限 株式数/総額	2,500万株/700億円
(10) 発行済対比自己株式取得率	4.90%（1,716万株） ⇒ 条件決定時の株価を前提（株式併合を加味：4,078円）

ポイント

(7) 上限希薄化率

<

(10) 自己株式取得率

>

希薄化を抑制

2. 2017年度 第2四半期決算（詳細）



©ANAHD2017

9

◎ 私から、2017年度 第2四半期決算と、通期業績予想の詳細について説明します。
10ページをご覧ください。

業績ハイライト

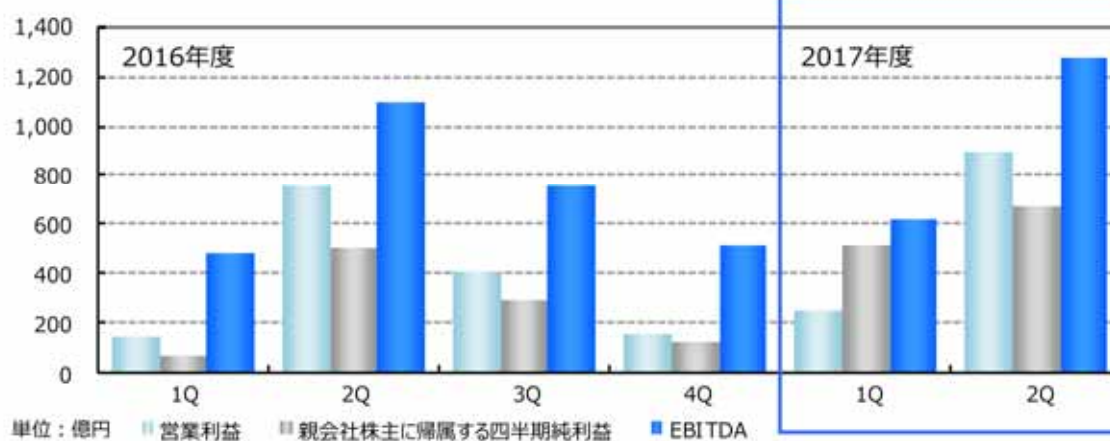
当年度と前年度各四半期の業績比較

【2017年度 第2四半期 累計 (連結)】

- 営業利益 : 1,150億円 (前年同期比 + 255億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 1,183億円 (同 + 609億円)
- EBITDA : 1,891億円 (同 + 312億円)

【第2四半期 (7-9月期) (連結)】

- 営業利益 : 896億円
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益 : 673億円
- EBITDA : 1,270億円



©ANAHD2017

10

- ◎ 第2四半期決算の業績ハイライトを、四半期毎の業績推移と共にお示しています。
- ◎ 右上に記載している通り、
第2四半期 3ヵ月間の業績は、営業利益が896億円、純利益が673億円、
EBITDAが1,270億円となり、全て過去最高を更新しました。
- ◎ 11ページをご覧ください。

連結決算概要

経営成績	単位：億円	FY2016	FY2017	前年差	FY2017	前年差
		第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
売上高		8,849	9,850	+ 1,000	5,333	+ 527
営業費用		7,954	8,699	+ 745	4,436	+ 385
営業利益		895	1,150	+ 255	896	+ 142
営業利益率 (%)		10.1	11.7	+ 1.6	16.8	+ 1.1
営業外損益		△ 61	△ 23	+ 37	△ 16	+ 9
経常利益		834	1,127	+ 292	879	+ 151
特別損益		1	439	+ 438	84	+ 84
親会社株主に帰属する四半期純利益		574	1,183	+ 609	673	+ 165
四半期純利益		576	1,197	+ 621	685	+ 176
その他包括利益		△ 125	166	+ 292	119	+ 76
包括利益		451	1,364	+ 913	805	+ 252

©ANAHD2017

11

- ◎ 経営成績の概要です。
- ◎ 売上高は、前年同期から1,000億円、11パーセント増加の9,850億円となりました。
一方、営業費用は、745億円、9パーセント増加の8,699億円となりました。
- ◎ その結果、営業利益は、28パーセント増加の1,150億円、
経常利益は、35パーセント増加の1,127億円となりました。
- ◎ 親会社株主に帰属する四半期純利益については、
前年同期から609億円増加の1,183億円となりました。
なお、Peach Aviationの連結化による株式評価益として、
約340億円の特別利益を計上しています。
- ◎ 12ページをご覧ください。

連結決算概要

財政状態	単位：億円	FY2016 期末	FY2017 第2四半期末	前年度 期末差
総資産		23,144	25,829	+ 2,685
自己資本		9,191	10,139	+ 948
自己資本比率(%)		39.7	39.3	△ 0.5
有利子負債残高		7,298	8,438	+ 1,139
D/Eレシオ (倍) *		0.8	0.8	+ 0.0
純有利子負債残高 **		4,110	4,101	△ 9

* オフバランスリース債務額 295億円（前年度期末 461億円）を含むD/Eレシオは0.9倍（前年度期末0.8倍）

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - （流動資産（現金及び預金 + 有価証券））

- ◎ 財政状態です。
- ◎ 総資産は、前年度期末より2,685億円増加の、2兆5,829億円となりました。
転換社債の発行による1,400億円の資金調達や、
Peach Aviationの連結化に伴う「のれん」の計上が影響しています。
- ◎ 自己資本は、948億円増加の、1兆139億円となりました。
9月末までに、216億円の自己株式取得を実施していますが、
期間利益の積み上げによって、自己資本は増加しており、
自己資本比率は、39.3パーセントとなりました。
- ◎ 有利子負債は、1,139億円増加の8,438億円となり、
デット・エクイティ・レシオは、前年度期末と同水準の、0.8倍となっています。
- ◎ 13ページをご覧ください。

連結決算概要

キャッシュフロー

単位：億円

	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	1,137	2,065	+ 927
投資キャッシュフロー	△ 1,153	△ 2,108	△ 955
財務キャッシュフロー	145	671	+ 526
現金及び現金同等物の増減額	84	631	+ 547
現金及び現金同等物の期首残高	2,651	3,090	} + 631
現金及び現金同等物の期末残高	2,735	3,722	
減価償却費	683	740	+ 57
設備投資額（固定資産のみ）	1,150	1,968	+ 817
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	△ 11	+ 398	+ 409
EBITDA（営業利益＋減価償却費）	1,579	1,891	+ 312
EBITDAマージン（%）	17.8	19.2	+ 1.4

©ANAHD2017

13

- ◎ キャッシュフローです。
- ◎ 営業キャッシュフローは、利益の増加に加え、上期における、法人税の支払額が減少したこと等により、前年同期から927億円増加の2,065億円の収入となりました。
- ◎ 投資キャッシュフローは、航空機を中心とした設備投資や、Peach Aviationの株式を追加取得したこと等により、2,108億円の支出となりました。
- ◎ 財務キャッシュフローは、転換社債の発行等による資金調達を行った一方、既存社債の償還、借入金の返済、配当金の支払、自己株式の取得等を実施したことにより、ネットで671億円の収入となりました。
- ◎ 3ヶ月超の定期・譲渡性預金の資金移動を除いた投資キャッシュフローから算出する、実質フリーキャッシュフローは、前年同期から409億円増加して、398億円の収入となりました。
- ◎ EBITDAは1,891億円、EBITDAマージンは19.2パーセントとなり、それぞれ過去最高となりました。
- ◎ 14ページをご覧ください。

連結決算概要

セグメント別実績		単位：億円	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年差	FY2017 第2四半期	前年差
売上高	航空事業		7,691	8,654	+ 962	4,685	+ 502
	航空関連事業		1,277	1,415	+ 138	757	+ 93
	旅行事業		824	835	+ 10	472	△ 11
	商社事業		689	691	+ 2	356	+ 11
	報告セグメント計		10,482	11,597	+ 1,114	6,272	+ 596
	その他		166	186	+ 19	97	+ 14
	調整額		△ 1,799	△ 1,932	△ 132	△ 1,036	△ 84
	合計（連結）		8,849	9,850	+ 1,000	5,333	+ 527
営業利益	航空事業		847	1,092	+ 245	861	+ 139
	航空関連事業		53	68	+ 15	26	△ 2
	旅行事業		20	22	+ 2	15	+ 2
	商社事業		26	22	△ 3	12	△ 2
	報告セグメント計		947	1,206	+ 259	915	+ 135
	その他		7	16	+ 9	10	+ 7
	調整額		△ 59	△ 72	△ 13	△ 30	△ 1
	合計（連結）		895	1,150	+ 255	896	+ 142

©ANAHD2017

14

- ◎ セグメント別の実績です。
- ◎ 売上高は、航空事業のみならず、全てのセグメントで前年同期を上回りました。
- ◎ 続きまして、航空事業の詳細について説明します。16ページをご覧ください。

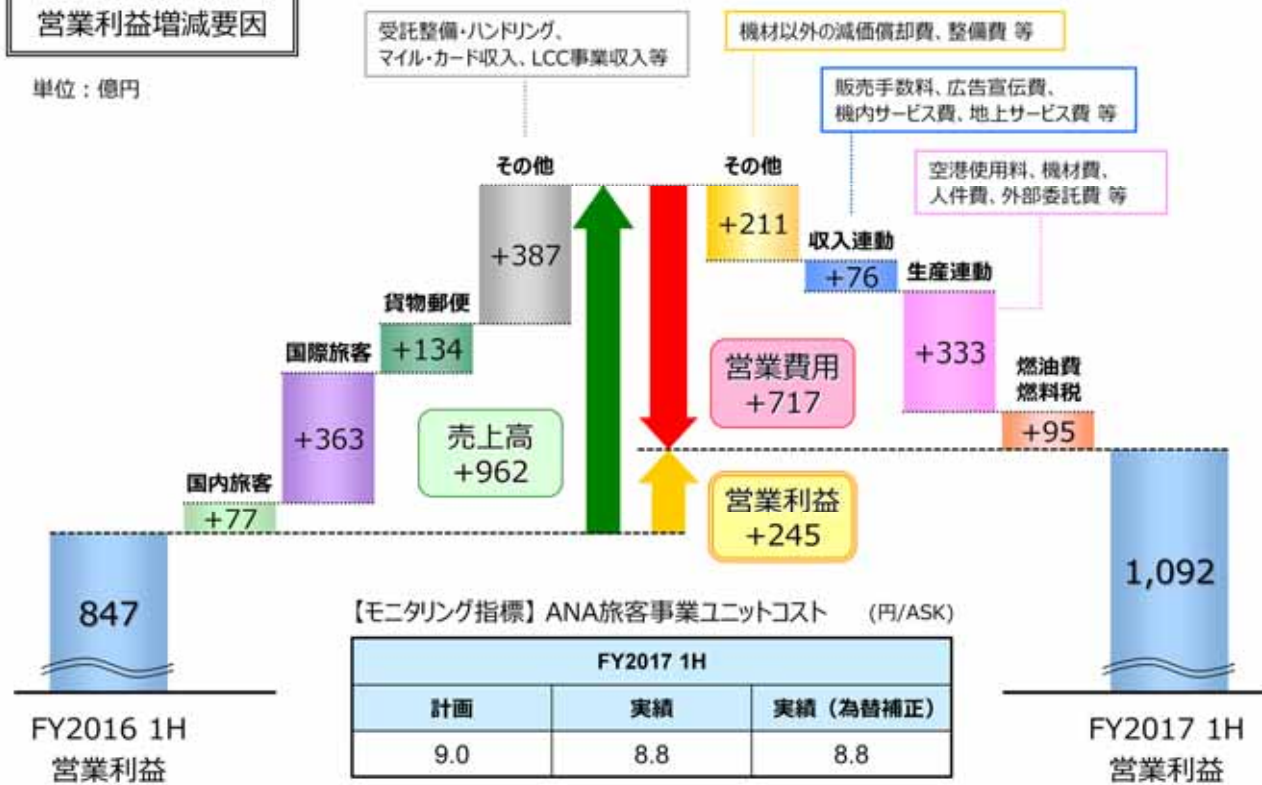
航空事業

収入・費用		単位：億円				
		FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年差	FY2017 第2四半期	前年差
売上高	国内線旅客	3,474	3,551	+ 77	2,005	+ 36
	国際線旅客	2,591	2,955	+ 363	1,560	+ 202
	貨物郵便	608	742	+ 134	379	+ 68
	その他	1,016	1,404	+ 387	739	+ 195
	合計	7,691	8,654	+ 962	4,685	+ 502
営業費用	燃油費・燃料税	1,362	1,458	+ 95	730	+ 36
	空港使用料	571	619	+ 47	317	+ 24
	航空機材賃借費	495	553	+ 57	277	+ 32
	減価償却費	650	708	+ 57	357	+ 30
	整備部品・外注費	514	654	+ 139	326	+ 58
	人件費	916	988	+ 71	501	+ 35
	販売費	450	505	+ 54	260	+ 39
	外部委託費	987	1,094	+ 107	552	+ 52
	その他	894	979	+ 85	499	+ 52
	合計	6,843	7,561	+ 717	3,824	+ 363
営業利益	営業利益	847	1,092	+ 245	861	+ 139
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	1,498	1,801	+ 302	1,218	+ 170
	EBITDAマージン	19.5	20.8	+ 1.3	26.0	+ 0.9

航空事業

営業利益増減要因

単位：億円



©ANAHD2017

16

- ◎ 航空事業における営業利益の、前年同期比較です。
- ◎ 売上高は、962億円の増加となりました。
国内旅客、国際旅客、貨物郵便、いずれの事業も増収となりました。
また、その他収入に含まれるLCC事業として、
バニラエアの収入が前年同期から約1.4倍に拡大した他、
新規に連結したPeach Aviationも、売上高の増加に貢献しました。
- ◎ 営業費用は、717億円の増加となりました。
事業規模の拡大により、生産連動、並びに収入連動の費用が増加した他、
年度当初において、計画として説明した通り、整備費が増加しました。
- ◎ 以上の結果、営業利益は、前年同期から245億円増加して、1,092億円となりました。
- ◎ なお、ユニットコストについては、下段の表に記載の通り、計画に沿ってコントロールしました。
- ◎ 18ページをご覧ください。

航空事業

国内旅客事業（実績）

(ANAブランド)	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年比(%)	FY2017 第2四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	30,225	30,051	△ 0.6	15,641	△ 1.2
旅客キロ（百万）	19,526	20,481	+ 4.9	11,184	+ 4.2
旅客数（千人）	21,520	22,499	+ 4.6	12,146	+ 3.5
座席利用率（%）	64.6	68.2	+ 3.5*	71.5	+ 3.7*
旅客収入（億円）	3,474	3,551	+ 2.2	2,005	+ 1.8
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	11.5	11.8	+ 2.8	12.8	+ 3.1
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	17.8	17.3	△ 2.5	17.9	△ 2.3
単価（円） （旅客収入／旅客数）	16,146	15,785	△ 2.2	16,511	△ 1.6

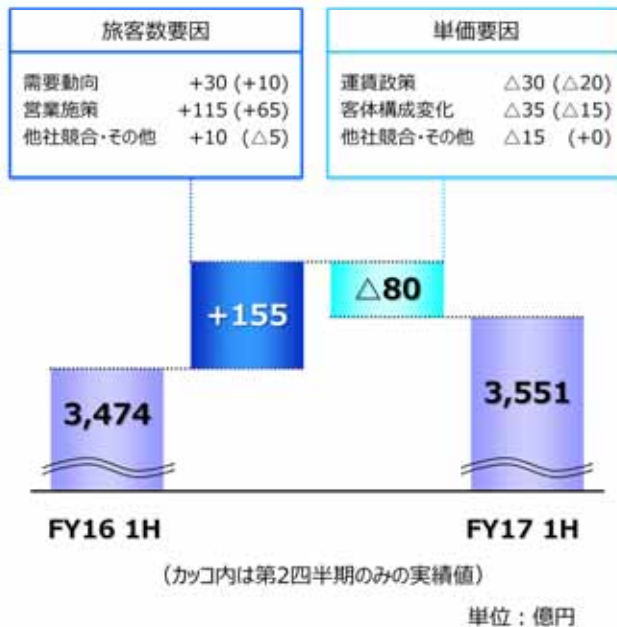
* 座席利用率のみ前年差

航空事業

国内旅客事業（事業動向）

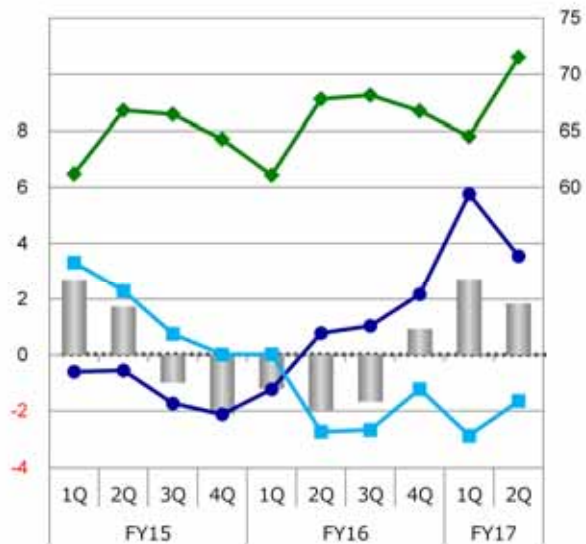
(ANAブランド)

第2四半期累計 収入増減要因



四半期別 実績推移

左軸（前年比：%） ■：旅客収入 ●：旅客数 ▲：単価
 右軸（実績：%） ◆：座席利用率



©ANAHD2017

18

- ◎ 国内旅客の状況です。
- ◎ 左の図は、上期の増収額、77億円の要因分析です。
- ◎ 旅客数要因では、総需要が堅調に推移するなか、低需要便への対策として、プロモーション運賃「旅割」を積極的に展開したことにより、155億円の増収となりました。
- ◎ 一方、単価要因では、客体構成の変化等により、80億円の減収となりました。
- ◎ なお、右の図や17ページにてご確認頂ける通り、需給適合を進めることで、座席利用率を着実に向上してきました。第2四半期単独では、71.5パーセントまで上昇しており、上期の実績、68.2パーセントと共に、当該期間として過去最高を更新しました。
- ◎ 20ページをご覧ください。

航空事業

国際旅客事業（実績）

(ANAブランド)	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年比(%)	FY2017 第2四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	29,458	31,852	+ 8.1	16,092	+ 8.4
旅客キロ（百万）	22,309	24,156	+ 8.3	12,548	+ 7.7
旅客数（千人）	4,479	4,761	+ 6.3	2,514	+ 7.1
座席利用率（%）	75.7	75.8	+ 0.1*	78.0	△ 0.5*
旅客収入（億円）	2,591	2,955	+ 14.0	1,560	+ 14.9
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	8.8	9.3	+ 5.5	9.7	+ 6.0
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	11.6	12.2	+ 5.3	12.4	+ 6.6
単価（円） （旅客収入／旅客数）	57,854	62,062	+ 7.3	62,052	+ 7.3

* 座席利用率のみ前年差

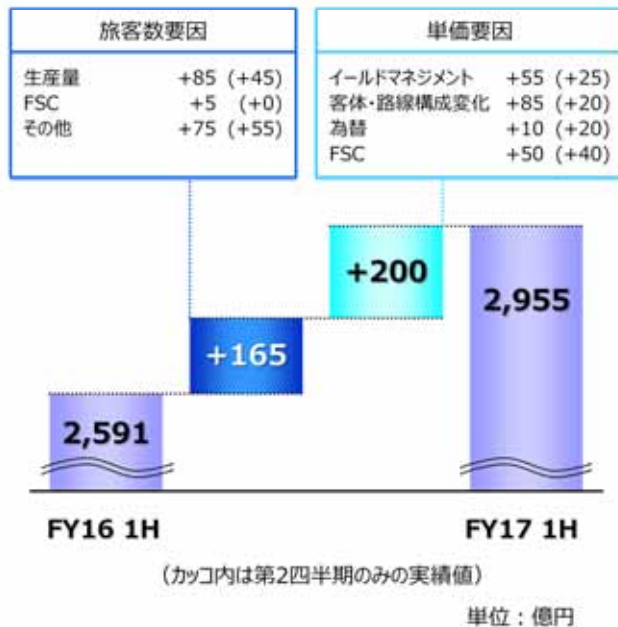
航空事業

国際旅客事業（事業動向）

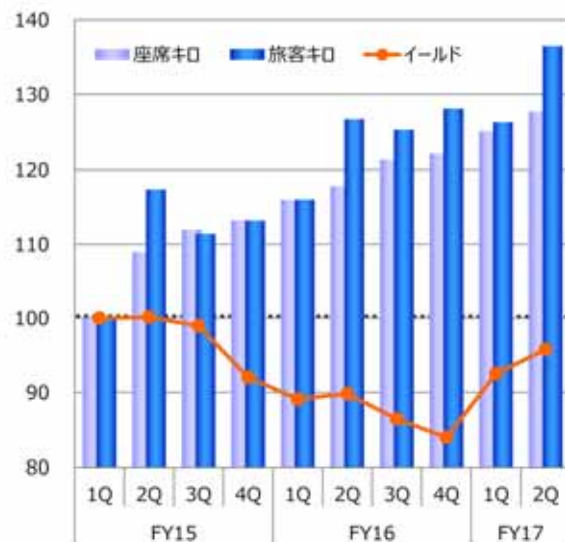
(ANAブランド)

第2四半期累計 収入増減要因

四半期別 実績推移



(指数：FY15 1Q=100)



©ANAHD2017

20

- ◎ 国際旅客の状況です。
- ◎ 左の図をご覧ください。
上期の増収額、363億円の要因分析です。
- ◎ 旅客数要因では、生産量の拡大に合わせて、
需要を幅広く取り込んだことで、165億円の増収となりました。
- ◎ 単価要因では、高単価需要の取り込みが奏功したことや、
イールドマネジメントを徹底した効果により、200億円の増収となりました。
- ◎ 21ページをご覧ください。

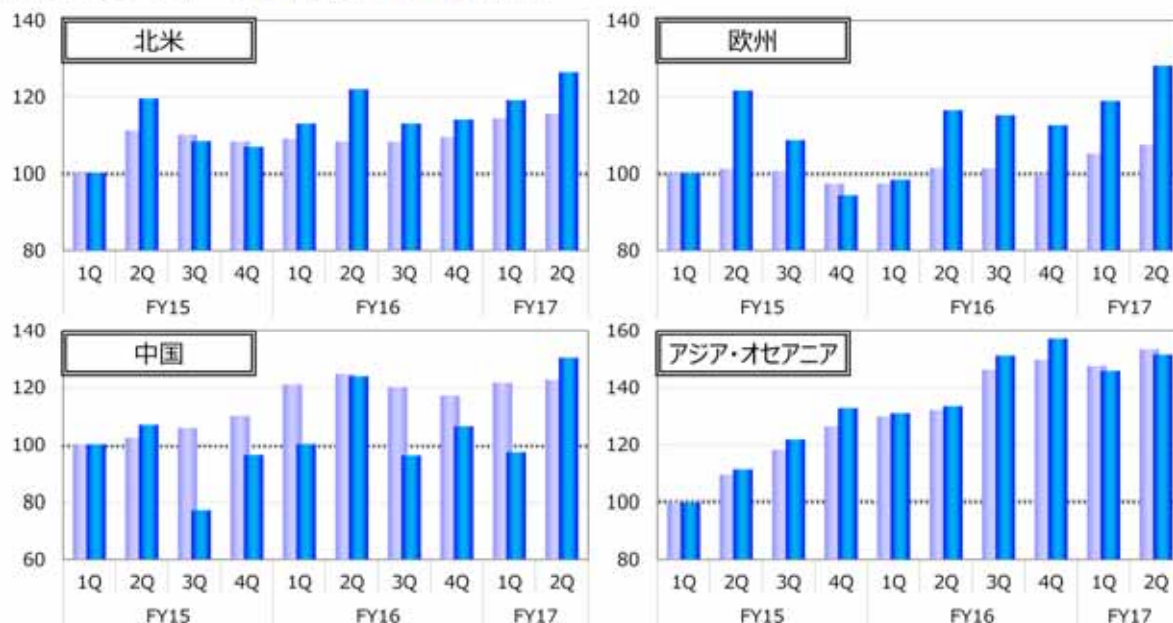
航空事業

国際旅客事業（事業動向）

（ANAブランド）

四半期別 方面別 座席キロ・旅客キロ 推移

（指数 FY15 1Q=100） ■：座席キロ ■：旅客キロ



©ANAHD2017

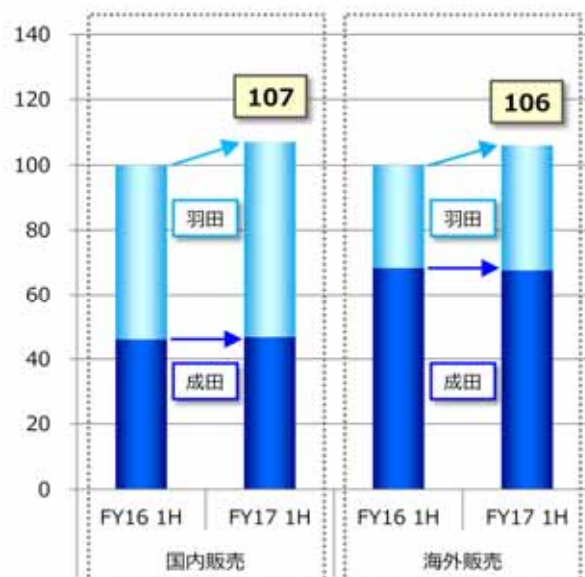
21

- ◎ 方面別の供給と需要の推移です。
- ◎ 第2四半期の旅客キロは、いずれの方面も前年を上回る実績となりました。
- ◎ 中国方面では、依然として、市場全体の供給量が高止まりしていますが、第2四半期は、個人旅行を中心とした訪日需要の取り込みが奏功しました。この結果、第1四半期に、60パーセントを下回っていた座席利用率は、第2四半期では、77パーセントまで向上しました。
- ◎ 22ページをご覧ください。

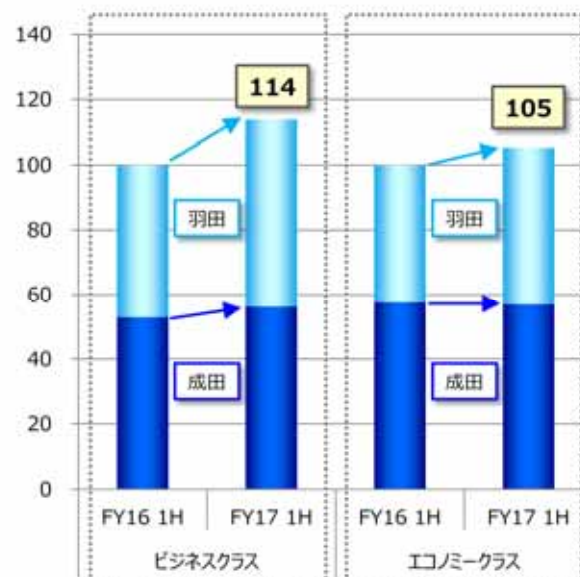
国際旅客事業（事業動向）

（ANAブランド）

販売地別 実績（前年同期比較）

旅客数 指数
(FY16 1H=100)

クラス別 実績（前年同期比較）

旅客数 指数
(FY16 1H=100)

22

- ◎ こちらのスライドでは、販売地別、並びに、クラス別に、当社の需要を分析しています。
- ◎ 各グラフは、2017年度上期の実績を前年同期と比較したものです。
水色は羽田発着の旅客数を、青色は成田発着の旅客数を表し、
前年同期における両空港の合計旅客数を100として、今年度の実績をお示ししています。
- ◎ 初めに、左の図をご覧ください。
日本販売の旅客数は、堅調な業務渡航需要を着実に捉えたこと、
テロの影響で減少していた欧州線のレジャー需要が回復したことなどにより、前年を上回りました。
- ◎ 一方、海外販売についても、アジア線における訪日需要が大きく増加したことなどで、
ほぼ同等の伸び率で拡大しています。
- ◎ 業務渡航需要の獲得が奏功したことは、右の図でもご確認いただけます。
ビジネスクラスの旅客数は、羽田発着路線を中心に、14パーセント増加しており、
エコミークラスを上回る伸び率となりました。
- ◎ 引き続き、羽田と成田の両空港を活用することで、幅広く需要の取り込みを進めていきます。
- ◎ 続きまして、26ページをご覧ください。

航空事業

国内貨物事業（実績）

	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年比(%)	FY2017 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	921	912	△ 1.0	487	△ 2.1
有償貨物トンキロ（百万）	225	222	△ 1.5	117	△ 2.3
貨物輸送重量（千トン）	222	216	△ 2.8	114	△ 3.5
貨物重量利用率（%）	24.5	24.4	△ 0.1*	24.1	△ 0.1*
貨物収入（億円）	150	151	+ 0.5	79	+ 0.1
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	16.4	16.6	+ 1.5	16.3	+ 2.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	66.9	68.3	+ 2.1	67.8	+ 2.5
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	68	70	+ 3.4	69	+ 3.8

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業（実績）

	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年比(%)	FY2017 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	3,267	3,391	+ 3.8	1,716	+ 3.8
有償貨物トンキロ（百万）	1,999	2,222	+ 11.2	1,124	+ 10.4
貨物輸送重量（千トン）	457	500	+ 9.4	256	+ 8.8
貨物重量利用率（%）	61.2	65.5	+ 4.4*	65.5	+ 3.9*
貨物収入（億円）	418	548	+ 31.1	279	+ 30.8
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	12.8	16.2	+ 26.3	16.3	+ 26.1
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	20.9	24.7	+ 17.9	24.8	+ 18.5
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	92	110	+ 19.8	109	+ 20.3

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

【参考】国際フレイター（実績）

本表のデータは、P24記載実績の内数

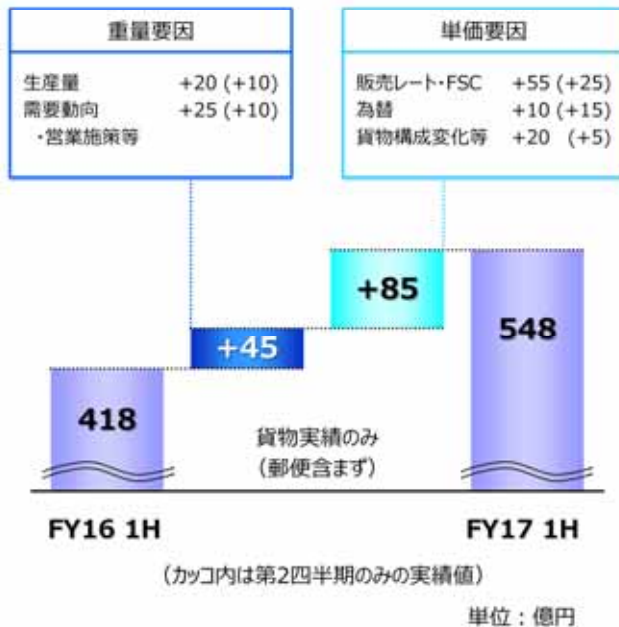
	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年比(%)	FY2017 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	627	541	△ 13.6	275	△ 14.5
有償貨物トンキロ（百万）	364	347	△ 4.5	179	△ 4.5
貨物輸送重量（千トン）	188	189	+ 0.5	98	+ 0.3
貨物重量利用率（%）	58.0	64.2	+ 6.2*	65.1	+ 6.8*
貨物収入（億円）	133	137	+ 3.2	70	+ 10.8
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	21.2	25.3	+ 19.5	25.6	+ 29.6
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	36.5	39.5	+ 8.0	39.4	+ 16.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	71	72	+ 2.7	72	+ 10.5

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業（事業動向）

第2四半期累計 収入増減要因



四半期別 実績推移



©ANAHD2017

26

- ◎ 国際貨物の状況です。
- ◎ 左の図をご覧ください。
上期の増収額、129億円の要因分析です。
- ◎ 重量要因では、輸出入貨物や、中国発北米向け三国間貨物の取り込みが奏功した結果、45億円の増収となりました。
- ◎ また、単価要因での増収は、85億円となりました。
堅調な需要動向を背景に、単価を大幅に向上してきました。
- ◎ 27ページをご覧ください。

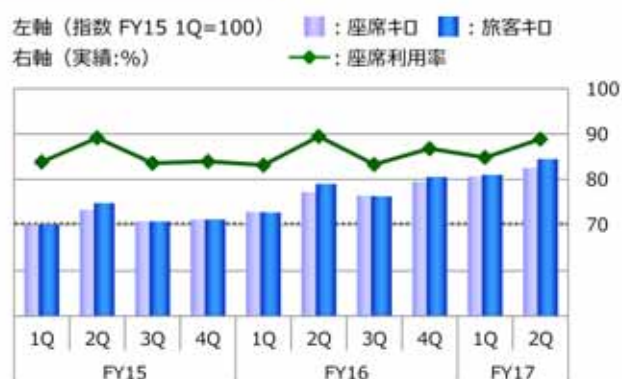
航空事業

LCC事業（バニラエア）

(国内線・国際線合計)	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年比(%)	FY2017 第2四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	1,994	2,516	+ 26.2	1,295	+ 19.7
旅客キロ(百万)	1,726	2,187	+ 26.7	1,151	+ 18.9
旅客数(千人)	1,016	1,378	+ 35.7	726	+ 27.6
座席利用率(%)	86.6	86.9	+ 0.3*	88.9	△ 0.6*

* 座席利用率のみ前年差

運用航空機数
エアバスA320-200型機：13機 (2017年9月末 現在)



©ANAHD2017

27

- ◎ LCC事業の実績として、本ページにバニラエアの状況を、28ページにPeach Aviationの状況を、それぞれお示ししています。
- ◎ 両社とも、需要を着実に取り込んだことで、高い座席利用率を維持しています。特に、第2四半期単独では、90パーセントに迫る実績となりました。
- ◎ 決算結果につきましては、以上です。
- ◎ 32ページをご覧ください。

航空事業

LCC事業 (Peach Aviation)

(国内線・国際線合計)	FY2017 第2四半期累計	FY2017 第2四半期
座席キロ (百万)	3,326	1,714
旅客キロ (百万)	2,923	1,541
旅客数 (千人)	2,507	1,320
座席利用率 (%)	87.9	89.9

運用航空機数

エアバスA320-200型機：19機
(2017年9月末 現在)

【新規就航路線 (第2四半期)】

- 仙台 - 札幌 (新千歳)
 - 札幌 (新千歳) - 福岡
 - 札幌 (新千歳) - 台北 (桃園)
 - 仙台 - 台北 (桃園)
- 9/24 就航
9/25 就航

航空事業以外のセグメント

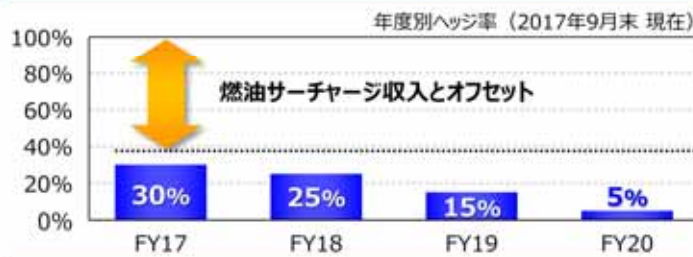
セグメント別実績	航空関連事業			旅行事業		
	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年差	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年差
単位：億円						
売上高	1,277	1,415	+ 138	824	835	+ 10
営業利益	53	68	+ 15	20	22	+ 2
減価償却費	25	23	△ 1	0	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	78	92	+ 13	20	24	+ 3
EBITDAマージン(%)	6.2	6.5	+ 0.3	2.5	2.9	+ 0.4
	商社事業			その他		
	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年差	FY2016 第2四半期累計	FY2017 第2四半期累計	前年差
売上高	689	691	+ 2	166	186	+ 19
営業利益	26	22	△ 3	7	16	+ 9
減価償却費	5	6	+ 0	0	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	31	28	△ 3	8	17	+ 9
EBITDAマージン(%)	4.6	4.1	△ 0.5	4.9	9.6	+ 4.7

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANAブランド)

【燃油ヘッジ 基本方針】

- ・国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
- ・国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージ収入で対応）

(US\$/bbl)	FY17 1H実績	FY17 前提値
トバイ原油	50.1	55
シンガポールケロシン	62.0	68

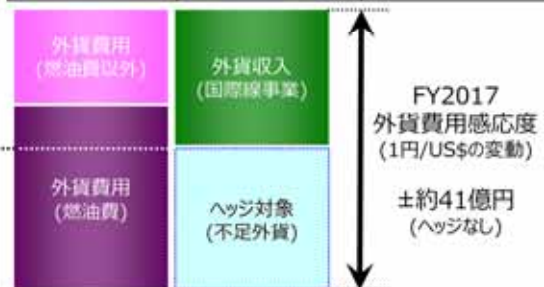
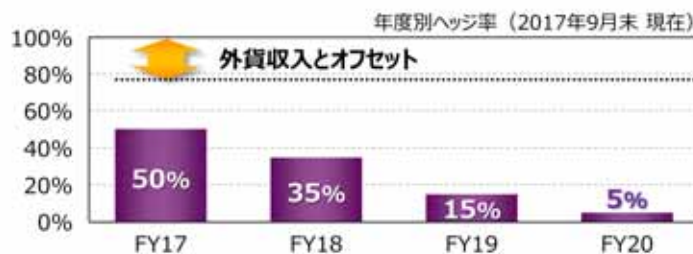


【為替ヘッジ 基本方針】

- ・不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）

(円/US\$)	FY17 1H実績	FY17 前提値
ドル円レート	111.1	110

※ヘッジ率は外貨費用（燃油費）に対する進捗



3. 2017年度 通期業績予想（詳細）



2017年度 通期業績予想

連結業績予想

単位：億円	FY2016	FY2017 (修正予想)	前年差	FY2017 (当初予想)*
売上高	17,652	19,250	+ 1,597	19,100
営業費用	16,197	17,650	+ 1,452	17,600
営業利益	1,455	1,600	+ 144	1,500
営業利益率(%)	8.2	8.3	+ 0.1	7.9
経常利益	1,403	1,500	+ 96	1,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	988	1,320	+ 331	1,250

市況実績・前提	FY2016	FY2017 (修正なし)
為替レート (円/US\$)	108.4	110
ドバイ原油 (US\$/bbl)	46.9	55
シンガポール原油 (US\$/bbl)	58.4	68

*2017年4月28日開示

©ANAHD2017

32

- ◎ 続きまして、2017年度の通期業績予想について説明します。
- ◎ 売上高は、前年度から9パーセント増加の、1兆9,250億円を
営業利益は、10パーセント増加の、1,600億円を見込みます。
- ◎ 当初予想との比較では、売上高で150億円、営業利益で100億円の上方修正です。
- ◎ 経常利益、当期純利益については、
それぞれ、1,500億円、1,320億円を見込みます。
- ◎ なお、下段に記載している通り、為替や原油の市況前提については
当初予想から変更ありません。
- ◎ 33ページをご覧ください。

2017年度 通期業績予想

セグメント別 業績予想		単位：億円	FY2016	FY2017 (修正予想)	前年差	FY2017 (当初予想)*
売上高	航空事業		15,363	16,920	+ 1,556	16,740
	航空関連事業		2,644	2,800	+ 155	2,740
	旅行事業		1,606	1,640	+ 33	1,700
	商社事業		1,367	1,440	+ 72	1,460
	報告セグメント計		20,981	22,800	+ 1,818	22,640
	その他		347	370	+ 22	360
	調整額		△ 3,676	△ 3,920	△ 243	△ 3,900
	合計（連結）		17,652	19,250	+ 1,597	19,100
営業利益	航空事業		1,395	1,520	+ 124	1,410
	航空関連事業		83	100	+ 16	90
	旅行事業		37	40	+ 2	45
	商社事業		43	45	+ 1	45
	報告セグメント計		1,559	1,705	+ 145	1,590
	その他		13	20	+ 6	20
	調整額		△ 117	△ 125	△ 7	△ 110
	合計（連結）		1,455	1,600	+ 144	1,500

©ANAHD2017

*2017年4月28日開示

33

- ◎ セグメント別の業績予想です。
- ◎ 全てのセグメントにおいて、増収増益を見込むことに変更はありません。
航空事業を中心に、それぞれ当初予想から内容を修正していますので、ご参照ください。
- ◎ 34ページをご覧ください。

2017年度 通期業績予想

航空事業 収入・費用予想		単位：億円	FY2016	FY2017 (修正予想)	前年差	FY2017 (当初予想)*
売上高	国内線旅客		6,783	6,870	+ 86	6,810
	国際線旅客		5,167	5,760	+ 592	5,710
	貨物郵便		1,324	1,460	+ 135	1,390
	その他		2,087	2,830	+ 742	2,830
	合計		15,363	16,920	+ 1,556	16,740
営業費用	燃油費・燃料税		2,736	2,940	+ 203	2,990
	燃油費以外		11,232	12,460	+ 1,227	12,340
	合計		13,968	15,400	+ 1,431	15,330
営業利益	営業利益		1,395	1,520	+ 124	1,410

*2017年4月28日開示

©ANAHD2017




34

- ◎ 最後に、航空事業における収入・費用の計画値について説明します。
- ◎ 売上高は、前年度から1,556億円増加の1兆6,920億円を、
営業費用は、1,431億円増加の1兆5,400億円を見込みます。
- ◎ 当初予想との比較で、売上高は180億円の修正となりますが、
下期における旅客事業、貨物事業の収入前提は、生産量を含めて、
当初の計画から変更していません。
- ◎ 営業費用では、燃油費で50億円の減少を、
一方、燃油費以外の費用で、120億円の増加を織り込んでいます。
整備関連費用の増加が主な要因であり、
「① 整備外注の単価が、当初の計画よりも上振れていること」
「② 下期の整備計画を、来期以降も見据えて精査したこと」などを反映しています。
- ◎ 以上により、今年度の航空事業における営業利益は、前年度から124億円の増加、
当初予想からは110億円の増加となる、1,520億円を見込みます。
- ◎ 私からのご説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

補足資料



補足資料

運用航空機数	FY2016 期末	FY2017 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
 Boeing 777-300/-300ER	29	29	-	24	5
Boeing 777-200/-200ER	24	23	△ 1	17	6
Boeing 787-9	21	25	+ 4	23	2
Boeing 787-8	36	36	-	31	5
Boeing 767-300/-300ER	37	36	△ 1	25	11
Boeing 767-300F/-300BCF	12	12	-	8	4
Airbus A321-200neo	0	1	+ 1	-	1
Airbus A321-200	4	4	-	-	4
Airbus A320-200neo	2	3	+ 1	3	-
Airbus A320-200	10	7	△ 3	7	-
Boeing 737-800	36	36	-	24	12
Boeing 737-700	7	7	-	7	-
Boeing 737-500	17	16	△ 1	16	-
Bombardier DHC-8-400	21	22	+ 1	22	-
ANA 計	256	257	+ 1	207	50
 Airbus A320-200	12	13	+ 1	-	13
 Airbus A320-200	-	19	+ 19	-	19
ANAグループ 計	268	289	+ 21	207	82

補足資料

国際旅客 方面別実績 (構成比)		FY2017 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2017 第2四半期 構成比	前年差
(ANAブランド)					
旅客収入	北米	31.3	△ 0.7	30.6	△ 1.0
	欧州	20.5	+ 1.4	20.4	+ 1.1
	中国	13.8	△ 0.8	15.0	△ 0.2
	アジア・オセアニア	29.5	+ 0.3	28.6	+ 0.5
	リゾート	4.9	△ 0.1	5.3	△ 0.4
座席キロ	北米	32.6	△ 0.7	32.5	△ 0.5
	欧州	16.2	△ 0.2	16.2	△ 0.4
	中国	11.1	△ 1.0	11.0	△ 1.1
	アジア・オセアニア	35.3	+ 2.1	35.6	+ 2.4
	リゾート	4.9	△ 0.2	4.8	△ 0.4
旅客キロ	北米	33.1	△ 1.2	32.8	△ 1.3
	欧州	17.2	+ 1.0	17.2	+ 0.4
	中国	9.9	△ 0.7	10.9	△ 0.3
	アジア・オセアニア	34.3	+ 1.3	33.7	+ 1.7
	リゾート	5.4	△ 0.4	5.4	△ 0.5

補足資料

国際貨物 方面別実績 (構成比)		FY2017 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2017 第2四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	31.0	+ 5.7	30.5	+ 2.6
	欧州	16.0	+ 1.1	15.8	+ 0.2
	中国	24.5	△ 5.8	24.7	△ 2.2
	アジア・オセアニア	23.8	+ 0.1	24.2	+ 0.7
	その他	4.6	△ 1.1	4.8	△ 1.4
有効貨物 トンキロ	北米	37.0	+ 0.6	36.8	+ 0.7
	欧州	16.1	△ 0.2	16.0	△ 0.3
	中国	16.3	△ 0.6	16.3	△ 1.0
	アジア・オセアニア	27.9	+ 1.3	28.1	+ 1.6
	その他	2.7	△ 1.0	2.7	△ 1.0
有償貨物 トンキロ	北米	37.1	△ 0.8	36.2	△ 1.7
	欧州	20.5	△ 0.2	20.5	+ 0.2
	中国	14.1	+ 0.2	14.3	△ 0.2
	アジア・オセアニア	25.4	+ 1.3	26.0	+ 2.3
	その他	2.8	△ 0.6	2.9	△ 0.6

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

【日本語】 株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・IR部

Eメール : ir@anahd.co.jp